プラン・ニュース［2018 Summer］NO.108

PLAN NEWS



夏休み読書感想文コンクール
5周年スペシャルインタビュー

中満 泉さん

国連軍縮担当事務次長・上級代表

エチオピアの
ガールズ・プロジェクトを
職員がレポート

スーダンの識字教育
女性たちが元気に～グリ活動地域～

発行：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

内山（以下略）『危機の現場に立つ』執筆のきっかけを教えてください。

中満泉さん（以下名前と敬称略）近年、日本の若者たちの「内向き思考」が話題になり気になっていました。日本は経済的に豊かな国ですが、飛行機でほんの数時間のところで起きていることを知らない若者が多いのです。そんななか、模擬国連活動などで国連を訪れる大学生のグループなどにはなるべくお会いするようにしていましたが、もっと若い年代、私が世界のことに興味をもち始めた中学・高校世代にむけてメッセージを発信したい、と強く思い執筆にいたりました。

――中満さんは子どものころから読書がお好きでしたか？

中満 読書は大好きでした。ノンフィクションものがほとんどで、歴史の本や伝記、それから宇宙とか生物の進化の話などの、科学関係の本も好きでした。本を通してこの世界はどんなところなのだろう、という興味をもったとも思います。でも今思うと、人間の心の機微を描き込んだ小説もたくさん読んでおけば、もう少し深みのある人間になっていたのにな、とも思います。小説は40歳を過ぎてから読むようになりました。

――女性がリーダーシップをとることのよさは何だと思いますか？

中満 この世界は男女50％ずつで構成されているのですから、その両方の視点をきちんと政策や組織運営に反映できることです。

――国連も多くの女性リーダーを輩出するまで長い時間がかかったとうかがっています。

中満 国連には事務局とUNHCR、UNDP、UNICEFなど主だった機関のトップである事務次長たちを事務総長が招集する幹部会というのがあります。２０１７年に就任したアントニオ・グテーレス事務総長は、この幹部会においてジェンダー・パリティ（男女比率半々）を達成して、幹部会メンバー44人のうち、23人が女性、21人が男性になりました。国連創設から70年以上たってようやく達成されたので時間がかかったともいえますが、他方、グテーレス事務総長になってから１年で達成されたわけです。要するに、トップの強い意志と指導力、そして数値目標を立ててこれを達成するために具体的な施策をとっていけば、まったく不可能なことではありません。


ミャンマー大洪水を視察する中満さん。多方面にわたる支援を行いました

――女性である中満さんが軍縮担当事務次長・上級代表というリーダーになって、チームに変化はありましたか？

中満 軍縮部の若い女性職員たちに、遠慮することなく自分の考え方や視点を声に出して発言することを奨励するようになったことでしょうか。そして、私自身も安全保障や軍縮問題といった、まだ男性が多い分野での政策議論にも、ジェンダーの視点を軍縮トップの立場から積極的に発言するようにしています。

――中満さんのこれまでのご経験で、過酷な活動現場でも女の子や女性がエンパワーされ、リーダーシップを発揮していた事例があれば教えてください。

中満 世界の紛争地などさまざまな現場で、女性は強力なリーダーシップを発揮し、チェンジ・エージェント（変革をもたらす人々）として活躍しています。たとえば、若いころに勤務していたボスニアのある町で避難民の支援体制を取り仕切っていたのは市役所の福祉課長の中年の女性でしたし、アフガニスタンでは、暗殺の脅威を物ともせず勇敢にリーダーシップを発揮する人権委員会の女性委員長に感動したこともありました。能力のある人は女性・男性にかかわらず多くいますが、リーダーになる人に共通しているのは、自分の活動における強いパッション（熱情）と困難になかでも挫けない勇気をもっている人だと思うことがよくあります。


アフガニスタンの国連事務所で


コンゴ東部のゴマ地区の子どもたちと

――今、紛争、難民対策で求められている支援のあり方とは、どのようなものでしょうか？

中満 もはやニーズに対応し続けるアプローチでは、年々増え続け長期化している危機には対応できません。国連加盟国の政治的責任をはじめ、紛争解決のための包括的な取り組みを考える必要があると思います。紛争予防のためには、世界が予防に効果のある分野に「投資」することが必要です。自然災害に関しても、災害は予防できませんが、防災に投資することで発災後の人道ニーズを大幅に減らすことができます。

――最後に、読書感想文コンクールに参加する中高校生にメッセージをお願いします。

中満 グローバリゼーションは経済活動の根本を変え、私たちの生活のさまざまな領域に大きな影響を及ぼしています。グローバリゼーションの流れは止むことはないでしょう。そんななかで、皆さんが知恵を絞って、恩恵を最大限に引き出し、弊害を最小限に抑える新しい取り組みを生み出すことが大切です。日本の子どもの貧困は、先進国のなかでは高い割合であることもぜひ気に留めてほしいです。未来をつくりだすのは、一人ひとりです。途上国の女の子が課題に立ちむかう力や女性のリーダーシップを知り、身近な社会の課題と関連づけ、自分には何ができるかを考えてほしい。そんな思いのもと実施され、今年で５回目を迎える夏休み読書感想文コンクール。これまでに全国の５１００人以上の中高生が参加し、「不当な扱いを受け続けている女の子たちのために声をあげたい」「豊かな国際感覚を身につける第一歩となった」などの声が届いています。今年も６月20日～９月10日（必着）を募集期間に、実施。審査員長は直木賞作家の角田光代さんです。ぜひご参加ください！ 詳細については、インフォメーション（P14）と同封チラシをご覧ください。

夏休み読書感想文コンクール2018「リアル」を知る。未来が変わる。



『危機の現場に立つ』
中満泉著、講談社刊
中満さんの初の著書。死と隣り合わせの現場で不条理な現実と、どう闘ってきたのか。生々しい交渉現場から、不正義への憤りや国連で働く意義、子育てとの両立まで、国際協力の現場を目指す人に有意義なメッセージが詰まった一冊。

～夏休み読書感想文コンクール５周年スペシャルインタビュー～

中満 泉さん

国連軍縮担当事務次長・上級代表

Profile
なかみつ・いずみ
1963年、東京都生まれ。米国ジョージタウン大学大学院修士課程修了後、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）で、国連のキャリアをスタート。2017年より、日本人女性初の国際連合事務次長として軍縮担当上級代表を務める。2018年には、フォーチュン誌発表の「世界の最も偉大なリーダー50人」に選出。

今年で５回目を迎える、プラン・インターナショナル主催の「夏休み読書感想文コンクール 2018」。
今年の課題図書のひとつである『危機の現場に立つ』（講談社2017年）の著者で日本人女性初の国連軍縮担当事務次長・上級代表に就任された中満泉さんに、世界の紛争や難民対策のあり方、女性のリーダーシップなどについて語っていただきました。

インタビュー聞き手：広報マーケティング部　内山雄太職員

本を通して、「内向き思考」から もっと世界に目をむけるようになってほしい

スーダン

文字が読めるようになった女性たちが地域を元気に

スーダンのグリ活動地域にあるコミュニティで行われている識字教室。女の子や女性への支援が、彼女たちと家族、そして地域経済にまで及ぼす波及効果について、この事例を通じて具体的にご紹介します



レンガの上にコンクリートを塗った、典型的なスーダンの家



識字サークルは地域の女性同士のつながりを深める場にもなっている



識字サークルで懸命にテスト問題に取り組む女性

女の子や女性と地域の変化をチェック!

識字サークルができたことによって、女性たちや地域にどのような変化が生まれたのでしょうか?

Change 1

コーランが読めるように

この地域では、女性の教育が重視されていないため、文字を読めない人が多いのが問題でした。このような状況のなか、信仰心のあつい女性たちは、「コーランを自分で読めるようになりたい」と、モスクに自主的に集まってきました。プランはこうした自主グループを対象に、識字サークルをスタート。結果、女性たちは自分でコーランが読めるようになりました。

Change 2

女性が抱える問題を共有

識字サークルは文字を学ぶだけでなく、地域の女の子や女性が直面している社会問題について具体的に解決策を話し合う場所にもなっています。それまでは、女性が一緒に話し合い、問題に気づく機会がありませんでした。しかし、識字サークルという女性たちが集う場ができたことによって、早すぎる結婚など、女性を取り巻く課題や弊害について、女性たち自身で考えるようになりました。

Change 3

女性のパワーが家族と地域を元気に

文字だけでなく、収入増加の手段を習得。市場で編み物や布を販売して、家計を助けることができるようになりました。夫や周囲の男性たちは、女性たちが地域経済の活性化に一役買ったり、得た収入を家族の生活改善のために使っている様子を、誇らしく、うれしく感じ始めています。そして何より、女性たち自身が、「男性と同様に率直に自分の意見を言ってもいい」と、自分に自信をもつようになりました。

VOICE from Sudan

識字サークルに参加したレミャさん(25歳)「自信と希望がもてるようになりました!」

レミャさんは5人家族で主に農業で生計を立てています。信仰があついレミャさんにとって、識字サークルで一番うれしかったのは、コーランが読めるようになったこと。「今までは、まわりの人たちが読むコーランを暗唱していました。今は自分で読み、理解して唱えることができます。それがとてもうれしいです」。また、レミャさんは識字サークルで作り方を覚えた編み物や布を市場で売るようになりました。「収入が得られること、そして自分や家族の生活をよくしていけることがうれしい。できることが増えたことで、自信がつきました。そして、これからの生活にもっと希望がもてるようになりました」



レミャさんの夫の話

「妻の活躍が誇らしいと思う。私たち家族のためにも、とても役立っている。家族として、サポートしていきたい」



スーダンの伝統的な衣装であるトウブを纏って識字サークルに集まる女性たち



識字サークルでは文字に加えて編み物を学ぶことも

今回紹介するのは…
アラビア語習得から生計向上まで学べる「識字サークル」

タウェラコミュニティで始まった識字サークルは、週に4回、午後2時から4時まで開催。約20人の女性がモスク(イスラム教の聖堂)に集まります。年代は20代から40代と幅広く、すでに家庭をもつ女性たちが中心。女性たちは、スーダンの公用語であるアラビア語を習得し、イスラム教の聖典であるコーランを読めるようになります。また、家計を管理するための計算を学んだり、編み物や縫製など、収入を得るための技術を仲間と一緒に習得します。「絶対に休まない、出席して学びたい!」と、家事や育児に忙しくても休まずに通う女性が多いのです。



スーダンってどんな国?

アフリカ諸国のなかでも人種的、言語的に多様性に富んだ国のひとつです。50年に及ぶ内戦と紛争で社会インフラが破壊され、再建には長い時間がかかるとされています。成人の4割以上が読み書きができません。

スーダンの女性が抱える問題

発言権の低さ

一般的に村長や宗教指導者などの影響力のあるリーダーは男性であり、女性は集会などへの参加や公の場で自分の意見を発言することはあまり奨励されません。

心身を傷つける慣習

早すぎる結婚や女性性器切除(FGM/C)といった、女の子と女性を傷つけ、権利を脅かす慣習が今も広く行われています。

識字率の低さ

識字率が低く、なかでも15歳以上の女の子と女性は約47%(※)に留まっています。プランの調査によると、女の子の小学校就学率は約50%と低く識字率の低さの原因のひとつとなっています。文字の読み書きは、女性が力をつけるための基本であるため、早急な対策が求められています。

※出典:http://uis.unesco.org/country/SD

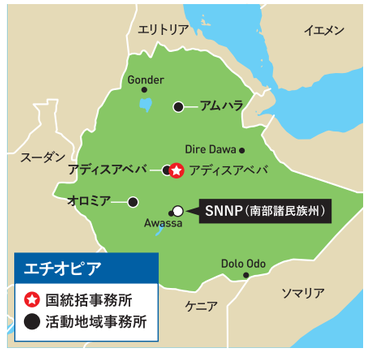
エチオピア

女性性器切除を なくす村をあげた取り組み


楠職員と対象地域の女の子

エチオピアの南部諸民族州の活動地域を訪れ、「女性性器切除から女の子を守る」プロジェクトの1年目の進捗確認を行った職員が、出会った人々の生の声や自身が感じた課題などをレポートします。

レポーター　プログラム部　楠祐子職員



エチオピアってどんな国？

アフリカ最古の独立国として知られ、人口約1億人の大国。経済は、主に自給自足による降雨に依存した農業で成り立っていますが、頻発する干ばつが生産に打撃を与え、慢性的な食料不足を招いています。また、安全な水の供給不足や衛生施設の未整備など社会基盤が脆弱であり、深刻な貧困問題を抱えています。


子ども議会のメンバーの男女比はおおよそ半々

オープンな話し合いが印象に残った子ども議会

今回の私の視察の目的は、女性性器切除（以下FGM／C）をなくすための、村をあげた取り組みがどのように行われているかを見ること。FGM／Cは、アフリカと中東地域の約30カ国で、約2000年前から続くといわれる。大人の女性になるための通過儀礼・結婚の条件として、幼児期から15歳ごろまでの女の子の性器の全部もしくは一部を切除するものだ。激痛と出血をともない命を落とす女の子もいる。死に至らなくとも、感染症や出産への悪影響を引き起こし、強い恐怖が心の傷として残る有害な慣習である。

まずは、子ども議会という日本でいえば学校の生徒会を訪れた。15人の生徒で構成され、子どもたちに関わるいろいろな問題について主体的に解決策をFGM／Cをなくすことも彼らの大切なテーマのひとつ。話し合いの様子を見て印象的だったのは、子どもたちがFGM／Cについてオープンに語っていること。施術をしていない女の子はアンカット・ガールと呼ばれるのだが、現地スタッフが「アンカット・ガールの子、手をあげて」というと、男の子の前でも少しも恥ずかしがらずに堂々と、全員の女の子が「はーい」と明るく手を上げたのには驚いた。職員によると、プランの意識啓発によって、子どもたちは女の子の心身を傷つける慣習の弊害について理解を深め、オープンに語れるようになったそうだ。

元施術師の女性の生の声に触れて

次に、70歳ぐらいの元施術師の女性に会う。「本業は陶芸家。伝統を守るのは大切。そう考えて、自分の孫も施術しました」



伝統を守るのは大切だと信じて、自分の孫も含めて何百人、何千人もの女の子を施術しました」と、彼女は淡々と話した。2004年に施術が違法化されたが、彼女は隠れて施術を続け摘発され、禁固6カ月間の刑に。刑期を終えたあとは改心して積極的にFGM／Cの害を訴え、廃止にむけてプランと一緒に活動している。自分が長年信念をもって行ったことを否定しなければならないのだから、いろいろな葛藤があったはずだ。彼女の勇気ある行動を讃えたいと思った。



義理の母から施術を強制された教師

22歳の教師、メルキットは、夫はFGM／Cを受けないことを理解してくれたのにもかかわらず、結婚した翌日に義理の母から施術を受けるように命じられた。離婚するか、施術を受けるかという厳しい選択を迫られ、泣く泣く施術を受ける。このことを後悔し、現在はFGM／Cから女の子を守るべく教師になって、学校でその弊害について教えている。

義理の母親の自宅にも案内され、挨拶をした。厳格な女性を想像していたが、ごく普通の温厚そうな女性だった。「母親は伝統に従って施術をすすめただけで、責められるべきは母親ではなく伝統」というプラン職員の言葉は重い。

地域のリーダーたちも支援の必要性を認識

最後に、コミュニティ、宗教、行政、警察、地元女性組織などの各方面のリーダーが10人ほど集まる会議を視察した。FGM／Cに関しては、「有害な慣習だという一定の知識はコミュニティに浸透しているが、まだまだ実践にいたっていない」という声が聞かれた。人々の理解はすすんできたが、定着にはまだまだ取り組みが必要である。



コミュニティリーダーたちと話す楠職員

進捗確認を終えて

「FGM/Cは危険」という認識は広まってきている。一方で、自分が住むところでは施術ができないため、FGM/Cの慣習が残っている近隣コミュニティに越境し、施術を受けてしまうケースがある。また、教育行政官は「慣習の特性上、施術が完全に0%になることはあり得ない。非合法的に隠れて施術するケースは残るだろう」と語っていた。こうした現実を踏まえた息の長い努力が必要。

今回、改めて男性の意識改革が肝心だと考えた。女性は意識が変わってきているが、施術していない女性を男性側が嫌悪するなど、施術を受けざるを得ない状況を男性が作っているからだ。子ども議会で見た、男の子が女の子とともにFGM/Cについて語り、一緒に解決する姿勢が未来を照らすと思う。

残りの2年間、ラジオ放送など、さまざまな方法で、さらに多くの人々にFGM/Cの弊害を伝えていく。こうした活動の主役は若い女の子と男の子である。次の調査では、もっと多くの男の子の声を聞いてみたい。

新しいガールズ・プロジェクトがスタート！

ご支援をよろしくお願い申し上げます

- 女の子の身体を危険にさらす「**早すぎる結婚の防止**」プロジェクト（ネパール）
- 先住民族が多く暮らす最貧困県で「**女の子が安心できる学校づくり**」プロジェクト（グアテマラ）

2018年7月から新プロジェクトが始まります。活動内容の詳細については同封チラシもしくはウェブサイトをご覧ください
https://www.plan-international.jp/join/girls/

グローバル・プロジェクト物語
「干ばつと子どもたち」

「気候変動と災害」はグローバル・プロジェクトのテーマのひとつです。
干ばつによる食料不足とその影響について、アフリカのニジェールのある一家の物語を通じて考えます。



ニジェールのある村で暮らす、アブドゥさんは、妻と子ども3人の5人家族です。農業で生計を立て、毎年雨季が来る前に家族で畑にミレット（モロコシ）※の種をまきます。収穫できると家族で食べたり、市場で売ったりします。



雨が降ればミレットは元気に育ちます。しかし、一昨年は雨が降らず、途中まで育ちましたがミレットは枯れてしまいました。その次の年も雨季が例年より早く終わったので、アブドゥさん一家は種まきが間に合わず、ミレットを育てることができませんでした。

※一般にモロコシ、キビ、アワ、ヒエといった雑穀類の総称

持続可能な開発目標（SDGs）とプランの活動を知ろう！ ～気候変動と飢餓対策～

解説：プログラム部　馬野裕朗職員



2030年にむけてよりよい世界を実現するために国連が掲げた持続可能な開発目標（SDGs）には、17の目標が並びます。そのうち、目標2の「飢餓をゼロに」と目標13の「気候変動に具体的な対策を」は密接に関連しているといえます。降雨量不足は穀物の不作につながり、食料不足を引き起こすからです。そして、その影響を受けるのは、貧困に苦しむ人々、とりわけ子どもたちです。ニジェールは過去10年以上、気候変動による慢性的な食料不足に苦しむ国のひとつ。プランは喫緊に必要な食料支援を実施する一方で、穀物の備蓄や干ばつに強い作物を栽培する技術指導を行うなど、予防や減災にむけた長期的な支援も行っています。異常気象による自然災害はこれからも頻発すると予測されるなか、速やかな対策が必要です。





ミレットが収穫できないので、アブドゥさん一家は貯蓄していた古い穀物、種や木の葉、栄養価の低い穀物のカスを食べましたが、それも底をつきました。現金を得るために大切なヤギを売りました。しかし、一家だけでなく村のみんなが家畜を売るので、価格は下落。十分なお金が得られません。アブドゥさんは出稼ぎに行くことになりました。一方、主食である穀物の値段は上昇したままなので家族は食事の量を減らすしかありません。15歳の長女ラティファ、12歳の長男マハマドゥ、2歳の次男ハッサンはいつもお腹を空かせています。



1日2回の水汲みをしていた長女ラティファは、干ばつで村の井戸が枯れたので、少しでも水がある別の村まで汲みに行かなくてはなりませんでした。別の村までは歩いて数時間かかるので、もう学校に通うことはできません。また、15歳の彼女にとって、水汲みのために夜道をひとりで歩くのは危険をともないます。長男マハマドゥは、学校に行ってもお腹が空いて勉強に集中できません。長い通学路の途中で、座り込んでしまうこともあります。次男ハッサンは栄養不良で、抵抗力が弱っています。生活用水が減り衛生状況が悪化するなか、幼い子どもは感染症が原因でよく下痢になります。そして、ハッサンのように抵抗力がなくなると、一回の下痢が命取りです。

「口減らしのためにマハマドゥにも出稼ぎに行ってもらおう。ラティファには結婚してもらおう」、アブドゥさん夫妻は、悩みながら決断しました。

そんなときプランは、この地域で食料支援をスタート。地域の人々と相談し、より支援を必要としている世帯を優先させます。栄養不良のハッサンを抱えるアブドゥさん一家は、支援の対象として選ばれました。子どもたちはやっとお腹いっぱい食べることができます。そして、子どもたちは、出稼ぎも、早すぎる結婚をする必要もなくなりました。

しかし、村が再び干ばつに襲われる可能性は残ったままです。一時的な支援に加え、長期的な取り組みが求められています。



ニジェールでの食料支援をはじめ、新しいグローバル・プロジェクトがスタート！

ご支援をよろしくお願い申し上げます

- 気候変動が脅かす小さな命「**栄養不良の子どもの食料支援」プロジェクト（ニジェール）**
- どんな子も教室から排除しない「**障がいのある子どもの教育支援」プロジェクト（トーゴ）**

2018年7月から新プロジェクトが始まります。活動内容の詳細については同封チラシもしくはウェブサイトをご覧ください
https://www.plan-international.jp/join/global/



「子どもたちの未来を応援したい」と語る高木代表

「環境問題は、大人よりも子どものほうが関心が高い」

日能研 代表 高木幹夫さん

1993年から20年以上にわたり、プランを通じてアジアを中心とした途上国支援を

中学入試問題と国連の「SDGs」はつながっている

『シカクいアタマをマルくする。』の電車内広告でもおなじみの日能研は、現在、全国で150近い教室を運営している「小学生のための中学受験塾」です。

同塾は、昨年SDGsをツールとして使い、私学の活動と入試問題に光を当てた『SDGs（国連 世界の未来を変えるための17の目標）2030年までのゴール』という冊子を作成しました。子どもたちが進学していくそれぞれの私学で、実践されている教育・活動は、世界規模の課題の解決や、持続可能な未来につながっていると考え、それが中学入試問題にも反映されていることを広く伝えたかったとのことです。

「私学の教育は自由度がとても高い。学校ごとに確固たる教育方針があり、入試問題にもそれが色濃く反映されています。そして多くの入試問題が、SDGsが掲げる17の目標とつながっています。答えが用意されていないSDGsをテーマに、不確かな未来を歩んでいく子ども自身が考えること。これが、非常に重要だと私たちは考えています。」

子どもの真っすぐな思い

「子どもたちは、『面白そう！』と感じたものには、とても熱心に取り組みます。SDGsのなかでも彼らが大きな関心を示すひとつが、環境問題。大人になると世の中の矛盾や、大人の事情といったことがじゃまをして、建設的な思考ができないこともあります。でも、子どもたちには関係ない。真っすぐに、自分ごととして前向きに考え、理解していきます。SDGsを題材にして学ぶ講座は、子どもたちの論理的思考を育むのにも役立っています。」





日能研の支援で完成したパキスタンの小学校

日能研発刊
『SDGs(国連 世界の未来を変えるための17の目標）2030年までのゴール』（みくに出版）

プランの透明性には好感がもてます

「私たちは、1953年の創設以来65年にわたり、中学受験、私学進学だけを専門とした独自の学びを展開し、SDGsができるずっと前から、世界の課題を学習に取り入れてきました。その一環として支援先を探していたとき、プランの透明性に好感をもちました。寄付したお金の使いみちや成果を明確に報告してくれるのはプランだけだったと思います。」

日能研は1993年、スポンサーとしてプランでの支援を開始。現在はアジアを中心に33人のチャイルドがいるほか、フィリピン、ネパールなど10カ国以上に、学校建設、識字教育などの支援を行っています。

SDGsに関してもっと情報発信を！

日能研では、受験を終えた子どもたちの「祝賀会」で、保護者からいただくことの多い謝恩費を、世界の困難な状況にある子どもたちの支援活動への寄付として使わせていただくと伝え、募金を呼びかけています。集まった額に、日能研が同額を添えて寄付し、卒業生・家族とともに世界の子どもの教育を応援しています。

「SDGsにかかわるNGOが、現場でどのような活動を行っているかという情報は、子どもたちにとってもよい教材になるはず。プランは今後、SDGsに関する取り組みについてどんどん情報発信してほしいと思っています。」



「遺贈のケースは今後ますます増える」と言う新庄さん

ご遺産の寄付は、故人やご遺族の希望を実現するために

東京都行政書士会「さくらさくオフィス」行政書士 新庄秀子さん

近年、遺言によって自身の財産を特定の人や団体に分け与える「遺贈」を考える人が増えています。その現状を行政書士の新庄さんが語ってくださいました。

寄付にまつわる状況が近年変化している理由

私は東京で行政書士をしていますが、近年、自身の遺産について、寄付を検討する方が増えてきていると実感しています。未婚の方や、お子さんのいらっしゃらない方が増えていることも要因のひとつでしょう。こうしたなか「普段あまり付き合いのない親族にお金を残すよりは、社会への恩返しとして寄付するほうが有意義なのでは？」「せっかくの貴重な財産なのだから、自分が共感できる社会貢献に役立てたい」といった声が聞かれるようになりました。

決断までに時間を要する遺言を残す方の思いとは

遺言書を作るのは、当事者にとって大変覚悟が必要なことです。ご相談に来られる方はたいてい、遺産の使いみちに関して迷いながら、非常に時間をかけて検討されます。なかには遺言書をつくるまでに1年くらいかかる方もいらっしゃいます。大切なご遺産ですので、遺言者、あるいはご遺族の意向を確実に実現してもらえるのかどうか、寄付先に確認する作業をお手伝いすることもあります。

ご意志を形にできる

私がプラン・インターナショナルについて知ったのは、プランのスポンサーをされている方がご相談にみえたのがきっかけでした。「プランに自分の遺産を寄付したい」というご依頼をうけ、初めて事務局にうかがいました。その際、どの国でどのような支援ができるのか、とてもわかりやすく具体的に説明していただき、信頼できる団体だと感じました。

遺贈を希望される方のうち、半分くらいは財産の使いみちに明確なご希望をおもちです。そうした方々にとっては、自分が遺したものが、きちんと自分の希望を叶える形で使ってもらえるかどうかが最も重要で、気になるところです。

プランは依頼人の希望に沿った支援を提案できる、数少ない団体のひとつだと思います。遺贈を検討する方は、今後ますます増えることでしょう。プランにはこれからも、そうした方々の期待に応えられる団体であってほしいと願っています。

遺贈で実施したオーダーメイド・プロジェクト事例

ラオスにおける母子保健プロジェクト

ラオス北部のウドムサイ県フン郡では、他の地域に比べて5歳未満児の栄養不良児が多いのが問題でした。このプロジェクトでは、地域の保健所で質の高い母子保健サービスの提供を通じて、子どもの栄養改善を目指しました。

［活動内容］
- 助産師へのトレーニング
- 保健所への必要な医療機器や備品などの提供
- 母子手帳の配布



お気軽にお問合せください

遺贈・相続の手続きなどを詳細に説明したパンフレットをお送りします。
同封チラシもご覧ください。

遺贈・相続担当：03-5481-7100
Mail hello@plan-international.jp



ユース活動

G-SChooLに新メンバー加入！

途上国支援について学び、プランの活動の理解の輪を広げる活動をしている学生グループ、G-SChooL。
今年4月から新たに参加したメンバーたちが、それぞれ抱負を語ってくれました。



上野さん
大学2年生

日本の社会福祉を勉強しているので、世界のことも同じテーマで知りたいです。

小日向さん
大学2年生

大学で国際農業を専攻していますが、日本のことだけではなくて世界の農業問題を学びたいです。

小笠原さん
高校3年生

以前G-SChooLのイベントに参加した時に、人身売買の問題を知りました。今度はメンバーになって、人身売買のない世界について考えたいです。

正田さん
高校3年生

世界を変えたい。もっと幸せな世界に変えるために、この活動に参加しようと思いました。

開発教育

高校生が「総合的な学習の時間」で事務局を訪問

開発教育を通じてプランと連携くださっているお茶の水女子大学附属高等学校。5月11日に2年生22人が来局し、途上国の女の子を取り巻く問題を熱心に学んでくれました。参加者のコメントをご紹介します。



吉原賀子さん

「授業を受ける前に『女の子の未来に投資を。』というプランの広告を見て、すごく共感していたので、今日は問題の解決のカギを握るのは女性という具体的な話が聞けて良かったです」

杮山梨々花さん

「途上国では強い立場の人に、弱い立場の人が従わなくてはならないことが多いように思う。弱い立場にある人が力をつけるための、支援をするべきだと考えました」

伊藤詩乃さん

「ニジェールの早すぎる結婚のビデオをみて、背景がよくわかりました。何をどう変えていく必要があるのか、具体的に知ることができてよかったです」

COFFEE BREAK　職員が紹介するカルチャー

女性が成長する過程を描くインド映画
紹介する人：広報マーケティング部　城谷尚子職員

2人の子どもと夫のために尽くす専業主婦が、英語が話せないというコンプレックスを乗り越え、新しい世界に出て奮闘する物語です。インド映画は歌ったり踊ったりするシーンがよく出てきますが、この映画はひとりの女性の成長過程が丁寧に描かれています。夫婦の在り方や、女性が自分の価値を再発見していく姿に共感しました。

『マダム・イン・ニューヨーク』
[English Vinglish]／2012年インド映画
Blu-Ray/DVD発売中
発売元：アミューズソフト
販売元：アミューズソフト
価格：3800円（税抜）
©Eros International Ltd.



チャイルドに会ってきました！

もうすぐお別れ……でも最後に会えてよかった！



昨年12月、チャイルドのソルヤンさんが暮らすカンボジアでコミュニティ訪問をしてきた寺園さん。実は3度目だったという今回は、どのような旅になったのでしょう。

スポンサー　**寺園義弘**さん／千葉県　チャイルド　**ソル ヤン**さん（訪問時17歳）／カンボジア

3度目の再会は学校で？

今回の訪問はプランが設置した保健所の視察からスタート。妊婦の方とも面会し、プランの活動が地元の人々にとても喜ばれていることを実感しました。

次に訪れた小学校は、前回も行った懐かしい場所。そこで子どもたちと一緒に、ソルヤンも待っていてくれました。みんなで教室へ移動し、子どもたちにクイズやゲームを盛り込んだミニ授業をさせてもらいました。

もうすぐ18歳でお別れ

その後はソルヤンが住むコミュニティに移動して、家族の皆さんと一緒にランチ。彼女とはずっと手紙でやり取りしてきたので、スタッフに「まるで家族のよう」と言われるほど和やかに過ごすことができました。

実は、ソルヤンはもうすぐ18歳になりプランを卒業。こうして会えるのも最後です。彼女が中学2年生で学校を辞めていたことや、結婚話が出ていることなど、さまざまな話を聞きました。別れが来ると覚悟はしていたものの、やはり寂しくなってしまいました。

コミュニティ訪問をするたび、プランの活動がさらに発展してほしいという気持ちになります。そのために少しでも多くの支援が欠かせないのだと痛感しながらの帰国となりました。



小学校で授業をしました。最初は少し緊張しましたが、みんなで楽しいひとときを過ごすことができました



ソルヤン（右）が幸多き人生を歩んでくれることを願ってやみません

※現在、面会場所はチャイルドの自宅ではなく学校などの公共施設にさせていただいております

立ち上げから11年目に突入！

プラン・フレンズは新たなメンバーも募集中！

2007年に事務局の呼びかけで設立された開発教育ボランティア「プラン・フレンズ」。主な活動は、小中高生を主な対象にした開発教育の実践です。創立時からのメンバー3人にお話しをうかがいました。華井和代さんは、「10年前と今では、開発教育が変わりました。途上国に関する知識は増え、国連の持続可能な開発目標（SDGs）など、地球規模の課題への関心が高まっています」と語ります。仲野麻理さんは、「授業は一期一会。だからこそ120%の準備をして子どもたちに向き合うように心がけています」。そして、根尾聰彦さんは「フレンズのメンバーにはさまざまな方がいます。子どもが好きな方、人と話すのが好きな方、そして国際協力に関心がある方は、ぜひ、一緒に活動してみませんか？」とメッセージを寄せてくれました。



（左から）華井さん、根尾さん、仲野さん。「バックグラウンドも年齢もバラバラなメンバーの化学反応が楽しいです」

※プラン・フレンズ活動の詳細、連絡先はこちらから　ウェブサイト https://planfriends.weebly.com

東京マラソン2019チャリティ チャリティランナー登録は7月2日スタート!

2017年に続き、プランは20ある東京マラソン2019チャリティ事業の寄付先団体のひとつに選ばれました！今年はプラン評議員の増田明美さんが事業地となるベトナムの現場を訪問し、情報発信されます。チャリティーランナーにご関心のある方、ぜひプラン・インターナショナルのチャリティランナーになって「ベトナム少数民族の女の子の教育」をご支援ください。

プラン・インターナショナルは東京マラソン2019チャリティ事業の寄付先団体です。
東京マラソン2019チャリティ公式ウェブサイト
http://www.marathon.tokyo/charity/

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

あなたも参加しませんか？

プラン広島の会 f

❶「チャイルドへのお手紙書き会」（毎月第3日曜日に開催。9月10月はイベントのため別日付に開催します。9月は❷をご参照ください。）
■ 日時：7月15日、8月19日、14時～16時
10月13日(土)、10月14日(日) 10時～16時
※10月は毎年参加している広島市の交流フェスタ内でお手紙書き会を実施いたします。
■ 会場：広島市まちづくり市民交流プラザ フリースペース(2Fまたは3F)／広島市中区袋町6-36
■ 内容：チャイルドへの手紙書き
■ 参加費：無料、事前申込不要

❷お手紙書き会特別版！「ベトナム料理を作って食べて、お手紙を書こう」
■ 日時：9月9日(日) 11時30分～14時
■ 会場：公益財団法人広島市文化財団 竹屋公民館　実習室(予定)
広島市中区宝町3番15号
TEL：082-241-8003
■ 内容：プラン広島の会が交流するチャイルドのクァンくんの国、ベトナムにちなんで、みんなでベトナム料理を作って食べ、その後お手紙を書きましょう。ランチのみ、お手紙書きのみの参加でもOKです。また、プラン支援者でなくても参加可能です。お誘い合せのうえ、ぜひご参加ください！
〈当日スケジュール〉
11:30-13:00 ベトナム料理を作ってランチをご一緒に！／13:00-14:00 チャイルドへお手紙書き会
■ 参加費：ランチ参加の場合は、食材費実費分500円程度をご負担いただきます。
■ 定員：ランチ参加は20人まで。お手紙書きの定員はありません。
※ランチに参加ご希望の方は、事前に下記までお申し込みください。

❶❷共通
■ 連絡先：小村
Mail：naokomura@kej.biglobe.ne.jp

プラン名古屋の会 W f

「プラン名古屋の会 例会」
■ 日時：8月18日(土) 13時30分～16時30分
■ 会場：ウィルあいち セミナールーム5
http://www.will.pref.aichi.jp/index.html
■ 内容：プランの棚田専務理事による記念講演、SurfAidシニアヘルスプロモーションオフィサーのRisna Aruanさんによる講演(内容未定・英語) なお、例会後に懇親会(18時30分開場、19時スタート) も予定しています。
■ 参加費：200円
※例会参加ご希望の方は、懇親会の参加可否も合わせ、下記までご連絡ください。
※この講演で通訳のボランティアに協力いただける方も、募集しています！
■ 連絡先：プラン名古屋の会
Mail: info@plan-nagoya.sakura.ne.jp
http://plan-nagoya.sakura.ne.jp
TEL：090-8076-2278 (安藤良一)

PLAN サポーターズ（札幌）

JICA北海道「世界ふれあいひろば」に今年もブース出展！（予定）
■ 日時：9月1日(土) 10時～15時予定
■ 会場：JICA北海道／札幌市白石区本通16丁目南4-25
■ 内容：途上国からの研修生も多数参加する国際色豊かなイベントで、チャイルドへのメッセージを集める予定です。例年、飲食屋台も出て賑わうお祭です。気軽な国際交流目当てのご来場大歓迎！
■ 入場料：無料
※当日ボランティアも募集中(お問合せは7月末までに下記まで)。
■ 連絡先：松澤
Mail：namaskar@jcom.home.ne.jp

プラン千葉 W

「秋の例会」
■ 日時：10月14日(日)　13時～16時予定
■ 会場：千葉市民会館会議室
(http://www.f-cp.jp/shimin.html)
■ 内容：チャイルドへの手紙書き、ほか
■ 参加費：プラン千葉の会員は無料、非会員はひとり500円
■ 定員：先着30名
※参加ご希望の方は、10月12日(金) までに下記へご連絡ください。
■ 連絡先：前田
Mail：e_maeda@yellow.plala.or.jp

プラン・フレンズ（開発教育ボランティア） W f

小・中学生むけワークショップ
「途上国の子どもたちが必要としているものは？～考えてみよう！ 支援で変わる女の子の未来～」
■ 日時：8月18日(土)
13:30～16:00(13:00受付開始)
■ 会場：JICA地球ひろば 研修室600（市ヶ谷駅より徒歩10分）
■ 内容：あなたが途上国に支援をするとしたら、どんなことをしますか？ワークショップでは女の子のふたつの人生から、途上国の抱える問題を学び、よりよい支援について考えていきます。
■ 対象：小学校5年生～中学生(そのほかの学年はご相談ください)
■ 定員：25名
■ 申込方法：お名前、学年、保護者同伴の有無、保護者の電話番号、プランのワークショップ参加経験の有無をお書きの上、お申し込みください。
■ 問合せ・申込先：石崎
planfriends@yahoo.co.jp

W ウェブサイト f フェイスブック
上記アイコンのある会については、以下のプラン・インターナショナルウェブサイトから、各会のページにリンクできます
https://www.plan-international.jp/supporter/plankai/

■ 支援者の会に関するお問い合わせ先：
プログラム部　TEL：03-5481-6100

夏休み読書感想文コンクール2018 「リアル」を知る。未来が変わる。

5年目を迎え、すっかりおなじみとなった夏休み読書感想文コンクール。ご家族、知人、学校の先生などにもぜひお知らせください。多くの中学生・高校生の参加をお待ちしています（P2-3もご覧ください）

【募集期間】
6月20日（水）～ 9月10日（月）（必着）
【課題図書】
『バナの戦争』（飛鳥新社）、『危機の現場に立つ』（講談社）、『わたしは13歳、学校に行けずに花嫁になる。-未来をうばわれる2億人の女の子たち-』（合同出版）、『Because I am a Girl　私は女の子だから』（英治出版）

【審査員長】
角田光代氏（直木賞作家／プラン・インターナショナル支援者）
【応募方法】
ウェブサイトより応募書類をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、作品と一緒に下記まで郵送してください。
【お問い合わせ・送付先】
〒154-8545　東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル11F
公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン　広報マーケティング部
「読書感想文コンクール2018」係
TEL：03-5481-0030
Mail：voice@plan-international.jp
※詳細は同封チラシやウェブサイトをご覧ください。



今年もいよいよ募集開始！

プランの活動を知っていただくための「プラン・ラウンジ」にご参加ください！

昨年9月にリニューアルオープンし、月に1回、おもにプランの事務局で開催している「プラン・ラウンジ」。毎月バラエティに富んだ内容で、プランへの支援を検討されている方、すでにご支援くださっている方に、プランの活動を知っていただく機会としています。これまでにご参加いただいた方は250人を超えました。参加者からは、「プランの活動への理解が深まった」「思いを共有できる多くの方々とお話できた」といった声が寄せられています。皆さま奮ってご参加ください。

【詳細・お申込み】
ウェブサイト
https://www.plan-international.jp/explan/


毎回設けている参加者同士の交流タイムも大好評です

「書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン2018」へのご協力ありがとうございました！

書き損じたり使い残したりした未投函のはがきをお送りいただくことで、途上国の子どもたちを支援する、書き損じはがき・未使用はがきキャンペーン。10回目を迎えた今回は、新たに長崎の大学2校を加えた合計8校の学生有志が参加。SNSの活用や自作ポスターなどさまざまな方法で広報してくださいました。その結果、4万8,114枚のはがきが集まり、188万6,866円という多額のご寄付につながりました。いただいたご寄付は、2018年度のガールズ・プロジェクトやグローバル・プロジェクトに大切に使わせていただきます。キャンペーンにご参加くださった皆さまの温かいお気持ちに心よりお礼申し上げます。


佐藤事務局長（右）に寄付金を手渡す創価大学のみなさん

協力校（順不同）
昭和女子大学 ボランティア委員会／甲南女子大学 文学部 レ・フルール／南山大学短期大学部 Nantan Girls'Project / 総合政策学部ポッターゼミ／宮城学院女子大学 国際支援活動Triangle／富士見中学高等学校 ボランティア委員会／創価大学 Save Children Network／活水女子大学石川ゼミ／長崎県立大学シーボルト校チームシーボルト

※「プラン・ニュース」No. 109は、10月上旬にお届け予定です

NEPAL

ネパール

チャイルドの一日、紹介します！

プランのスポンサーと交流しているチャイルドは、毎日どんな生活をしているの？ そんな疑問にお答えする新シリーズです。

ナマステ～！
私はスディナ。
15歳の女の子です。
今回は私の一日を
紹介します。



2歳のときにプランの
チャイルドになりました。
将来は先生になるのが夢です！



6:00　起床

朝はニワトリの声とともに起床。起きたらすぐにチャイを一杯！ そのあと自分でふとんをたたんで、家じゅうの掃き掃除をします。





7:00　予習・朝ごはん

歯磨き・洗顔のあと、学校の予習をしてから朝ごはん。豆のスープ、スパイシーな漬物、炒めた青菜とごはんが定番です。村の共同水栓から水を汲んでくるのと、朝食後の皿洗いは私の仕事。



7:45　登校

制服に着替え、友人のマニシュたちと一緒に学校へ。山道を45分くらい歩きます。



9:00 ～ 15:00　授業

私が好きな科目は国語。成績は一番なんです！ お昼は学校近くのお店で買った「チウラ」という干し飯を食べます。休み時間は、クラスメートのカリンやアユーシェと楽しくおしゃべり。



16:00　帰宅

お茶を飲み、今日の復習をしてから、お母さんと一緒に夕食をつくります。メニューは朝食と同じ。夕食後は皿洗いをして、21時には就寝！

支援者専用サイト「マイ・プラン・ページ」で、スディナさんの一日の動画をチェック！

ご登録はこちらから
https://plan-international.jp/supporter/mpp/

● シリーズ動画「チャイルドの一日」 毎週水曜日更新中！ ウェブサイトでは、
各国のチャイルドにビデオを渡し、それぞれのある一日を撮影してもらった動画をご覧いただけます。
https://www.plan-international.jp/join/sponsor/oneday/



PLAN NEWS
2018 SUMMER NO.108

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22 サンタワーズセンタービル 10F
TEL：03-5481-6100　FAX：03-5481-6200
www.plan-international.jp

表紙写真：ニジェールの女の子